

V 宍道湖袖師親水型湖岸堤（島根県松江市、河川）

V-1 事業条件の整理

【事業名】	宍道湖袖師親水型湖岸堤	【事業分野】	河川
【事業対象・規模】	対象：島根県松江市 規模：規模：L=約 500m、A=約 9,000m ²		
【事業主体】	建設省中国地方整備局 出雲工事事務所、松江市	【周辺関連事業】	島根県立美術館整備、夕日スポットの整備
【景観検討の段階】	構想・計画・設計・施工・維持管理		
【事業期間・施工】	平成 7 年～平成 11 年		
【事業概要】			

1995 年に出雲工事事務所が湖岸堤の改修に伴うプロポーザルコンペを行い、建設省の管理地と、松江市の公園部分、県立博物館の外構部分を一体として緩傾斜の土手として再生する案が受け入れられたことに端を発する。

公園や美術館敷地の一部が大雨時には水没することを許容し、河川技術者と都市デザイナー、建築設計者の協同、行政間の垣根を超えた協議によって、「かつての州浜を蘇らし、宍道湖を眺める緩やかな土手をつくる」ことが実現された。

美術館の形状から湖面、至近にある嫁ヶ島、対岸の風景まで、シンプルなこの公園のデザインがそれらを一体の風景として連続させており、開放的で親しみやすい水辺空間が創出されている。

また、夕日や対岸の夜景を眺めるスポットとしての評価も高い。



図 事例対象位置図



V-2 調査対象とする景観向上効果

計画・設計の意図		景観に配慮した内容	想定された効果
A. 張り芝護岸による水面への自然な連続			
1	美術館から公園、護岸、水面までの一体的な整備	○芝生広場を介しての連続した風景の創出 ○勾配を工夫することによる構造物の隠蔽	●新たな水辺空間の創出と利用 ●美術館利用者の立ち寄り
2	関連するモチーフの導入	○屋外への彫刻作品の設置 ○松の植栽	
B. 親水性の高い遊歩道			
1	高い親水性の確保	○水面に近いレベルでの遊歩道の設置 ○縁石の立ち上がりによる境界の設置（転落防止柵を用いない）	●親水機会の増加
C. 安らぎを与える水際景			
1	砂州の形成	○松杭による突堤の設置	●水辺での滞留機会の増加
2	水鳥の飛来	○松杭による突堤の設置	

V-3 調査手法と対象および調査範囲

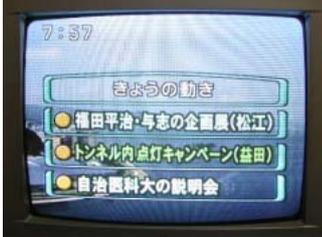
調査手法		対象	調査範囲等
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	半径 500m 以内の配布可能な 1000 世帯 ※回収結果： 360/1000 通 (回収率 36%)	<p>岸公園 (現地観測調査場所)</p> <p>アンケート配布範囲 (半径 500m 範囲)</p>
	現地来訪者 (観光客を含む)	来訪した観光客 (平日及び休日の終日に実施) ※回収結果 107 票	
ヒアリング調査	事業主体 (行政) 関係者	①国土交通省出雲河川事務所 ②国土交通省松江国道事務所 ③松江市公園緑地課	
	利用団体	①NPO まちづくりネットワーク島根 ②松江カヌー協会	
	対象建築物等所有者	①島根県立美術館	
現地観測調査		平日、休日	

V-4 事後評価結果

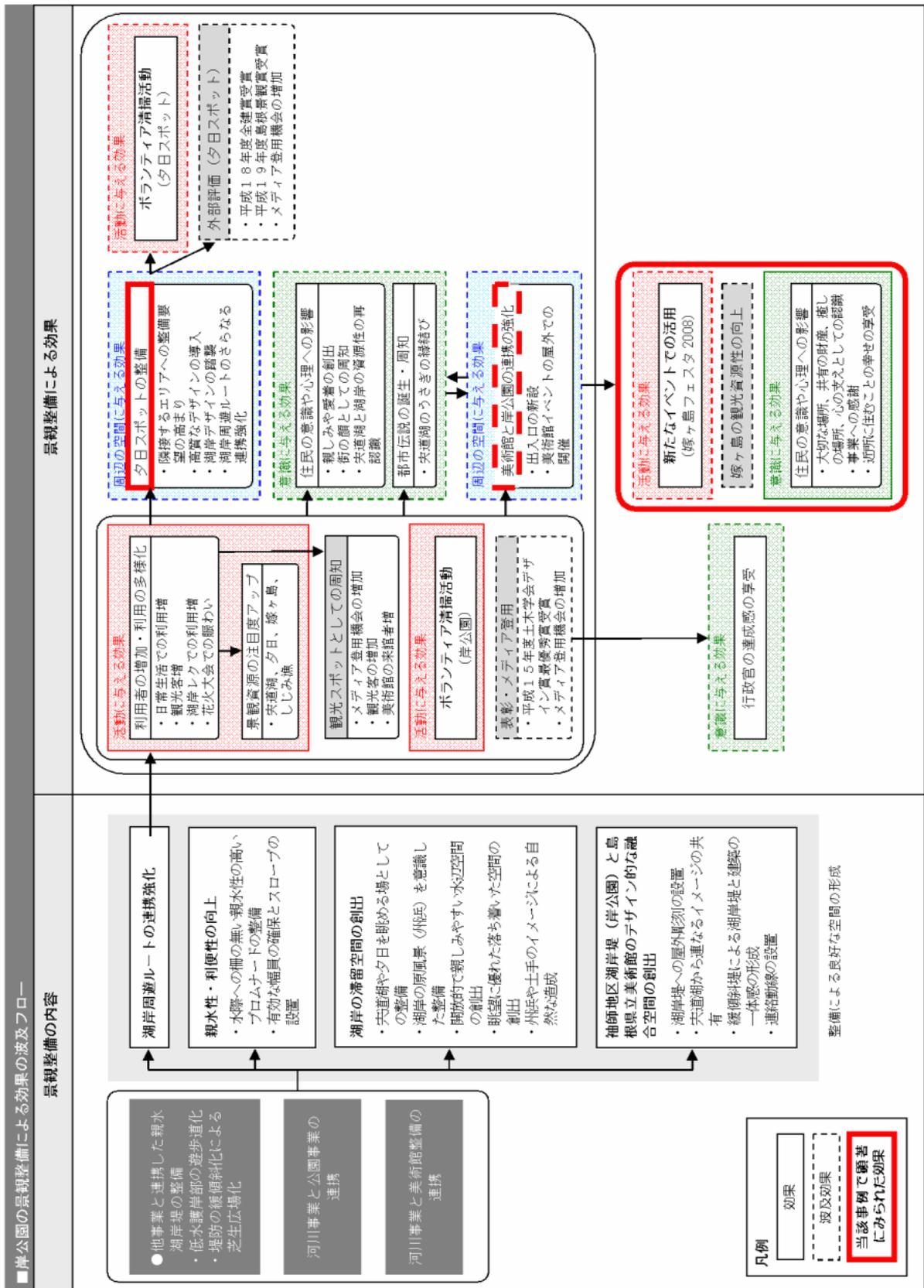
①確認された景観向上効果

景観整備による効果	調査結果	調査手法																															
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>①整備した空間の機能向上に対する認知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「湖岸周遊ルートの連携の強化」(57%) 	<p>アンケート(住民N=361)</p>																															
	<p>②整備した空間の印象の向上</p> <p>他、現地聞き取り調査では、きれい、美しい、良い、とても良い、癒される、気持ち良いなどの好意的な多くの印象が多様な表現で挙げられている。</p> <div data-bbox="459 757 1142 1256" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>岸公園の印象</p> <table border="1" style="margin: 0 auto; font-size: small;"> <caption>岸公園の印象 (回答数: 236)</caption> <thead> <tr> <th>印象</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>きれい・美しい</td><td>40.18%</td></tr> <tr><td>優れた眺望</td><td>34.15%</td></tr> <tr><td>開放的な雰囲気</td><td>23.10%</td></tr> <tr><td>良い・とても良い・素晴らしい・すてき</td><td>24.10%</td></tr> <tr><td>落ち着いた雰囲気</td><td>17.7%</td></tr> <tr><td>高い親水性</td><td>17.7%</td></tr> <tr><td>芸術との触れ合い</td><td>10.4%</td></tr> <tr><td>癒される</td><td>9.4%</td></tr> <tr><td>気持ちいい</td><td>8.4%</td></tr> <tr><td>整備されて良くなった</td><td>8.3%</td></tr> <tr><td>自然との調和</td><td>5.2%</td></tr> <tr><td>周辺との一体感</td><td>5.2%</td></tr> <tr><td>洗練されたデザイン</td><td>2.1%</td></tr> <tr><td>静か</td><td>3.1%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>31.13%</td></tr> </tbody> </table> </div>	印象	割合	きれい・美しい	40.18%	優れた眺望	34.15%	開放的な雰囲気	23.10%	良い・とても良い・素晴らしい・すてき	24.10%	落ち着いた雰囲気	17.7%	高い親水性	17.7%	芸術との触れ合い	10.4%	癒される	9.4%	気持ちいい	8.4%	整備されて良くなった	8.3%	自然との調和	5.2%	周辺との一体感	5.2%	洗練されたデザイン	2.1%	静か	3.1%	その他	31.13%
印象	割合																																
きれい・美しい	40.18%																																
優れた眺望	34.15%																																
開放的な雰囲気	23.10%																																
良い・とても良い・素晴らしい・すてき	24.10%																																
落ち着いた雰囲気	17.7%																																
高い親水性	17.7%																																
芸術との触れ合い	10.4%																																
癒される	9.4%																																
気持ちいい	8.4%																																
整備されて良くなった	8.3%																																
自然との調和	5.2%																																
周辺との一体感	5.2%																																
洗練されたデザイン	2.1%																																
静か	3.1%																																
その他	31.13%																																
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意識に与える効果</p>	<p>①親しみ・愛着、誇りの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親しみ、愛着を感じる」(73%) 他、自由回答において、「近所に住むことの幸せの享受」、「大切な場所」、「心の支え」といった回答が見られた。 ・知人が松江に来た時に案内したい(73%) ・街の顔だと思う(61%) 他、自由回答において、「共有の財産」、「松江を代表する場所」といった回答が見られた。 	<p>アンケート(住民N=361)</p>																															
	<p>②地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街の顔だと思う(61%) 他、自由回答において、「共有の財産」、「松江を代表する場所」といった回答が見られた。 	<p>アンケート(住民N=361)</p>																															

住民の日常生活での利用に与える効果 活動に与える効果	①利用の多様化	<ul style="list-style-type: none"> 住民の利用では、散歩・散策・ウォーキングが55%と多く、次いで夕日見物32%、美術館見学時の休憩26%となっている。 来訪者への聞き取り調査では、美術館見学21%、夕日見物18%の順となっている。なお、うさぎ参りに関しても12%と高い。 <div style="text-align: center;"> <p>来訪の目的</p> <p>回答数: 146</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 観光客が多く、観光バスの立ち寄りも見られ、観光スポットとしての位置付けが確立している。 時間帯により利用形態が大きく異なる（朝：ウォーキング等、昼間：子連れでの遊び等、夕方：夕日見物等） <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>うさぎ見物(左)と夕日見物(右)</p>	アンケート（住民 N=361、現地聞き取り N=107） ヒアリング 現地観測
	①イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> 美術館において岸公園を利用したイベントが行われるようになった。 嫁ヶ島フェスタ 2008 の開催などの活性化が見られる。 	ヒアリング
②維持管理活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 日常の自発的な清掃活動が行われている。 	ヒアリング	
景観整備による波及効果	調査結果	調査手法	
周辺空間に与える効果 隣接する空間整備に与える効果	<ul style="list-style-type: none"> 宍道湖の夕日を眺める場としての「夕日スポット」が整備された。（本事業が夕日スポットの整備に対する提言が出される一要因となった。） 夕日スポットの整備において、護岸のデザインに岸公園のデザインが踏襲されている。 	ヒアリング 現地観測	

<p style="writing-mode: vertical-rl;">周辺の空間整備に 与える効果</p>	<p>①周辺施設整備との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館が岸公園との連絡口を新に設置した。 ・ 夕日スポットの整備において、護岸のデザインに岸公園のデザインが踏襲されている。 	<p>ヒアリング 現地観測</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">地域経済に与える効果</p>	<p>①観光振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館の来館者が多いことの要因の一つに優れた公園整備があると考えられる。 ・ 聞き取り調査では公園利用者の 21%が美術館の見学目的で来訪した方であった。 ・ 観光客が多く、観光バスの立ち寄りも見られ、観光スポットとしての位置付けが確立している。 ・ 嫁ヶ島フェスタ 2008 の開催などの活性化が見られる。 ・ 宍道湖うさぎの像が取り持つ縁結びの都市伝説が生まれ、参拝者が多数来訪するようになった。  <p>うさぎ詣での様子</p>	<p>アンケート（現地聞き取り N=107） ヒアリング 現地観測</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">外部評価の高まり</p>	<p>①外部機関（専門家）からの表彰等 ②マスコミ・メディア掲載の増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土木学会デザイン賞大賞を受賞 ・ 岸公園の整備後に新に整備された夕日スポットは、「全建賞」、「島根景観賞」を受賞している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝のニュース時などにおけるインタービジョンとして多用されている他、ドラマのロケ地としても複数回利用されている。   <p>(写真) 朝のニュース時にインタービジョンとして利用される岸公園のお天気カメラ映像 (左) (写真) ドラマのプロモーションのための主演女優のstuhl撮影の様子 (右)</p>	<p>ヒアリング ヒアリング 現地観測 テレビ</p>

②効果の波及フロー図



③プロット図



VI 指宿海辺の散歩道（鹿児島県指宿市、海岸）

VI-1 事業条件の整理

【事業名】	指宿海辺の散歩道	【事業分野】	海岸
【事業対象・規模】	対象：（鹿児島県指宿市） 規模：L=300m、W=約 8m、護岸の改修、プロムナードの整備		
【事業主体】	鹿児島県	【周辺関連事業】	砂むし会館「砂楽」の整備
【景観検討の段階】	構想・計画・設計・施工・維持管理		
【事業期間・施工】	平成 6 年（1994）供用開始		
【事業概要】	<p>鹿児島県では、1991年3月に「錦江湾ウォーターフロント整備基本構想」を策定し、「優れた自然を未来に、潤いと活力のあるウォーターフロント文化の創造」を基本理念に掲げた。さらに、1992年度からは錦江湾の適地において、親水性や景観形成等に配慮した整備のあり方をモデル事業として実施することとした。本設計は、その一環として「指宿市摺ヶ浜地区」を対象に実施したものである。</p> <p>本地区の海辺には、指宿観光の拠点である「天然砂むし温泉」がある。海辺沿いに多数の宿泊施設が立地しているにもかかわらず、海を背にして街並みが形成されている状況にあった。そこで、護岸・突堤等の修景と親水性の向上を図り、県と市・民間が協力し、錦江湾と一体となった海洋性リゾート空間としての再整備を行うこととした。</p> <p>護岸直背後にホテル・旅館が建ち並び、狭小な管理通路とともに魅力に欠ける水際線であったことから、まさに「裏通り」と呼称される海岸線を、天然砂蒸温泉や今後の海浜整備を踏まえて海に開けた空間の創出に配慮した。</p> <p>海辺の散歩道は、鹿児島県の「錦江湾ウォーターフロント整備基本構想」に基づき、そのモデル事業として整備され、平成6年に供用された。これに呼応して、指宿市は平成8年にそれまでの砂むし会館を改築し、「砂楽」を建設するとともに、海浜部には全天候型の「天然砂むし」を整備した。また、平成8年にはホテル吟松の建て替え、平成10年には九州電力の保養所が建て替えられた。</p> <p>こうした整備により、砂楽と散歩道周辺は、指宿温泉の中心地として認知されることとなり、現在、散歩道の延長計画や子宝ロードなどの事業が計画されている。</p>		
【整備前後の写真】			
			
	整備前の管理通路	整備後のプロムナード	

VI-2 調査対象とする景観向上効果

計画・設計の意図		景観に配慮した内容	想定された効果
A. 通過だけでなくいろいろな楽しみを与えるプロムナード空間の形成			
1	滞留空間としての階段 広場の整備	○階段広場は滞留可能な機能を有する場 所としてデザイン ○ベンチ等の休憩施設の設置	●指宿温泉の拠点となる海辺空間としての創出と利用
2	歩行感や砂の落としやすさを確保	○ボードウォークを整備	
3	上下の歩行空間を確保	○護岸の下部に下駄や草履でも歩ける舗道を整備	●通過空間としてだけでなく滞留空間としての利用
4	見返りの視点場を確保	○突堤の上部を舗装し見返りの景色を楽しめる視点場とした。	
B. 石材を利用した飽きの来ないデザイン			
1	護岸の修景	○直立護岸を練石張りで被覆 ○直立護岸がなめらかに海浜に摺り付く断面形状	●風格が感じられる空間の創出
2	橋の修景	○高欄、親柱、舗装に石材を活用	
C. 周辺施設との一体化（海に開けた空間づくり）			
1	舗装面を嵩上げし、背後との連続性を確保	○舗装面を嵩上げして、背後の敷地と面を合わせる。	●海浜・ボードウォーク・背後施設の一体的な空間の創出
2	ブロック塀の撤去	○背後の施設にブロック塀の撤去を要請	

VI-3 調査手法と対象および調査範囲

調査手法		対象	調査範囲等
アンケート調査	整備対象 位置周辺 の地元住 民	摺ヶ浜地区の住民 散歩道から 500m以 内(徒歩圏内)の 500 世帯 ※回収結果： 121/500 通 (回収率 24%)	
	事業主体 (行政) 関係者	指宿市商工観光課	
ヒアリング調査	利用団体	摺ヶ浜通り会 丹波小学校 砂楽	
	対象建築 物等所有 者	旅館吟松 九州電力保養所	

VI-4 事後評価結果

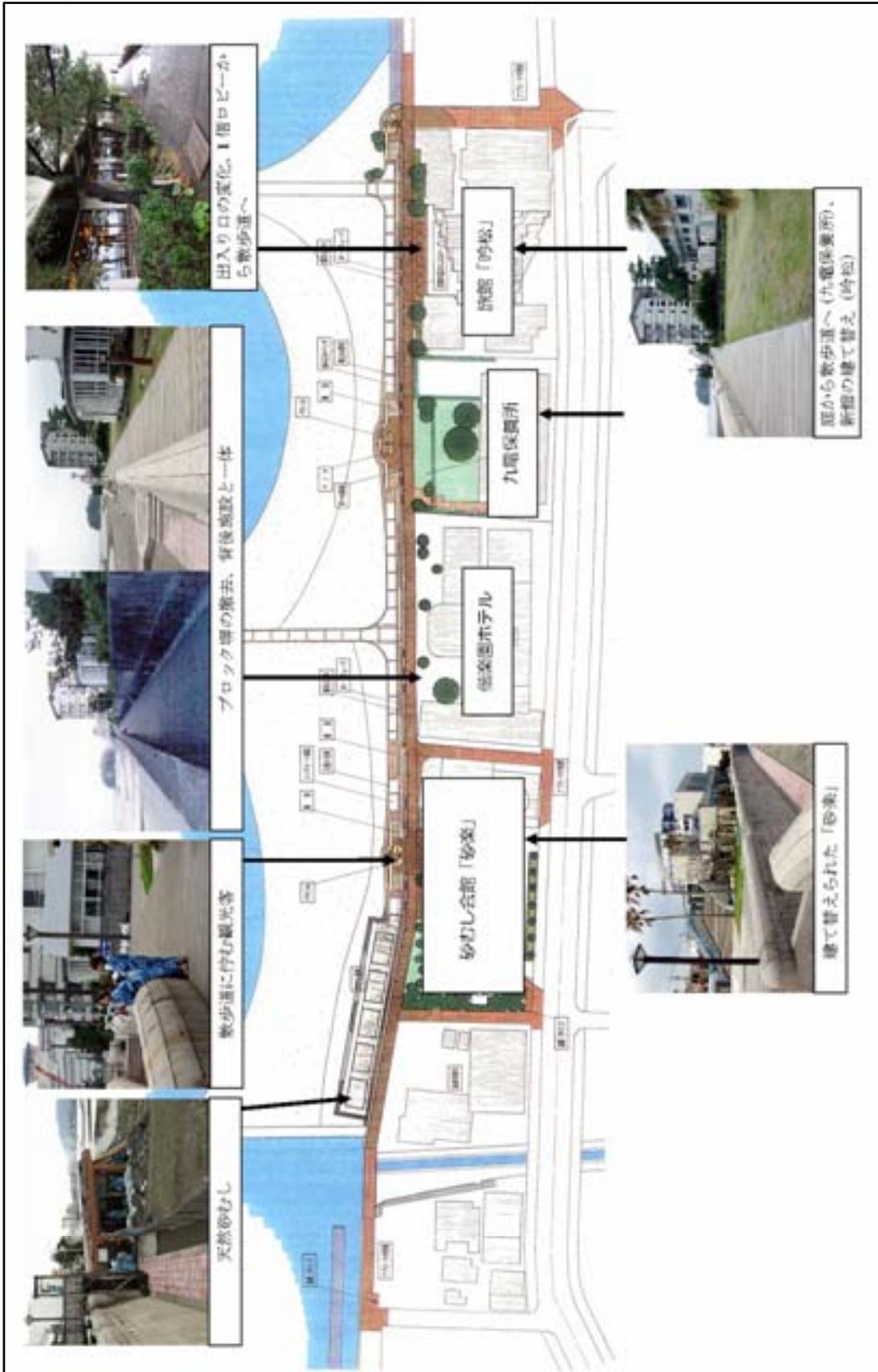
①確認された景観向上効果

景観整備による効果	調査結果	調査手法
<p>整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>①整備した空間の機能向上に対する認知</p> <ul style="list-style-type: none"> 海に向かって開放感がある (83%) 歩きやすい (82%) 海岸と散歩道と建物に一体感がある (75%) 自然を感じる (74%) 	<p>アンケート (N=121)</p>
<p>整備した空間の印象の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 散歩道の全体の評価：大変良い、良い (84%) 整備前と比べた風景：とても良くなった、良くなった (90%) 	<p>アンケート (N=121) アンケート (N=94)</p>
<p>意識に与える効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 親しみ、愛着を感じる：大変感じる、感じる (86%) 誇り：大変感じる、やや感じる (67%) 整備前と比べて海岸への愛着・親しみ：強く感じるようになった、少し感じるようになった (65%) 	<p>アンケート (N=121) アンケート (N=94) N=94</p>

	<p>②地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知</p>	<p>◇散歩道の認知</p> <ul style="list-style-type: none"> 知っている、行ったことがある (91%) 散歩道の整備前の状況：知っている (78%) <p>「指宿・海辺の散歩道」の認知</p> <p>「海辺の散歩道」の整備前の認知</p> <p>◇シンボル・ランドマークとしての認知</p> <ul style="list-style-type: none"> 散歩道の景観整備によるまちの魅力：魅力が大きく増した、やや増した (67%) 指宿温泉を代表する風景：強く感じるようになった、少し感じるようになった (66%) <p>「海辺の散歩道の景観整備による、指宿のまちの魅力について」</p> <p>「指宿温泉を代表する風景と感ずるかについて」</p>	<p>アンケート (N=121)</p> <p>アンケート (N=94)</p>
	<p>③景観やまちづくり、環境に関する意識の高まり</p>	<p>◇散歩道の整備による、景観やまちづくりに対する関心：大いに関心が高まった、やや関心が高まった (68%)</p> <p>「海辺の散歩道の整備による、景観やまちづくりに対する関心について」</p>	<p>アンケート (N=94)</p>
<p>住民の日常生活での利用に与える効果</p>	<p>①利用の増加</p>	<p>◇整備前後の利用：よく利用するようになった、利用するようになった (55%)</p> <p>「散歩道の利用について」</p>	<p>アンケート (N=94)</p>
<p>活動に与える効果</p>	<p>②利用の多様化</p>	<p>◇利用形態 (利用の頻度について「ほとんどなし」以外の割合を集計)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「散歩、ジョギング、ウォーキング」(86%) 「ベンチで休憩」(62%) ・「夕涼み」(64%) 「砂楽を利用する際に利用」(60%) <p>「散歩・ジョギング・ウォーキングで利用」</p> <p>「ベンチで休憩してのんびりと過ごす」</p>	<p>アンケート (N=121)</p>

団体活動、維持管理活動に与える効果	① イベントの開催	・菜の花ウォーキングマーチのコースとして利用	ヒアリング
	② 維持管理活動の実施	・市民による清掃活動の実施	ヒアリング
景観整備による波及効果		調査結果	
周辺の空間に与える効果	① 建物の形態、ファサード、意匠等の変化	・背後施設の建て替え 	ヒアリング 現地調査
	② 建築外構の変化	・ブロック塀の撤去  ・出入り口の変化  	ヒアリング 現地調査
	① 周辺施設整備との連携	・海岸整備にあわせた「砂楽」と「天然砂むし」の整備  	ヒアリング 現地調査

③プロット図



VII 福島西道路沿道風景づくり事業（福島県福島市、道路）

VII-1 事業条件の整理

【事業名】	福島西道路沿道風景づくり事業	【事業分野】	道路
【事業対象・規模】	対象：（福島県福島市） 規模：L=約2km、W=40m（環境施設帯 W=10mを片側に有す）		
【事業主体】	国土交通省 福島工事事務所	【周辺関連事業】	福島西土地区画整理事業
【景観検討の段階】	構想・ <u>計画・設計・施工</u> ・維持管理		
【事業期間・施工】	昭和57年度～平成9年度		
【事業概要】	<p>福島西道路は、一般国道13号のバイパス道路であり、福島市の西部地区に位置する。本事業の対象区間は、平成7年に暫定2車線で供用された延長約2kmの区間であり、中心市街地の交通渋滞緩和と西部地区の新しい骨格としての役割を担い整備された。整備にあたっては、良好な街並み景観の創出や、地域の歴史・文化を“ゆとりの空間”に活かすこと、また沿道にある湧水や神社森の再生などが、配慮すべき事項として挙げられた。ここで、“ゆとりの空間”とは、既存市街地を通過することにより生じた三角形の断続する残地を、歩道と一体に整備されたものである。</p> <p>また本事業は、地域住民の協力を得たまちづくり、風景づくりのモデルとして、美しい山並み（吾妻連峰、信夫山）や良好な周辺環境など地域の特性を活かした魅力ある沿道環境の創造を目標に進められた。なお本事業においては、平成7年度に、福島工事事務所と福島市が土木学会技術賞を受賞している。</p>		

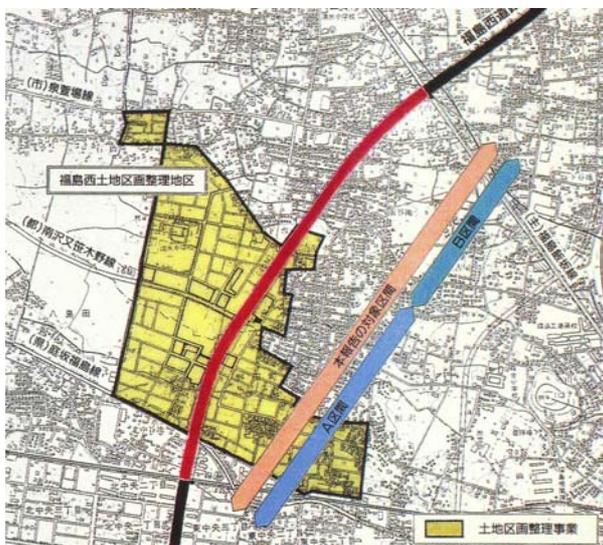


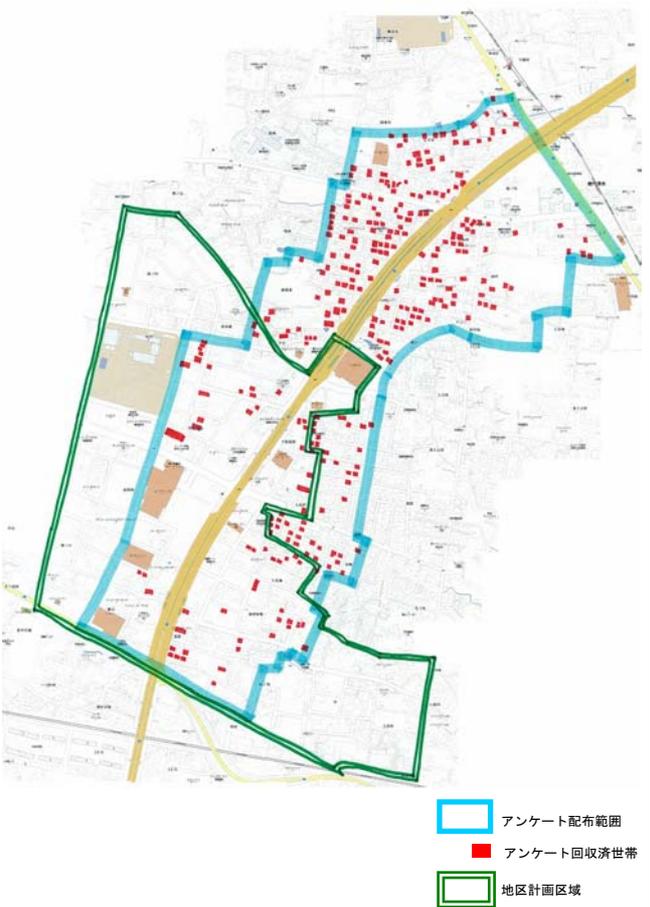
図 整備対象箇所：赤線（土地区画整理事業対象地区：黄枠）

平成7年度に、福島工事事務所と福島市が土木学会技術賞を受賞している。

Ⅶ-2 調査対象とする景観向上効果の選定

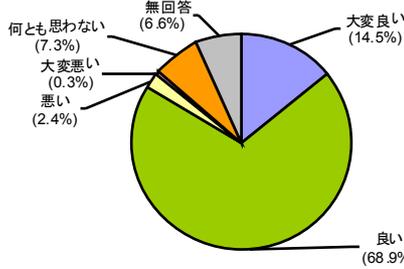
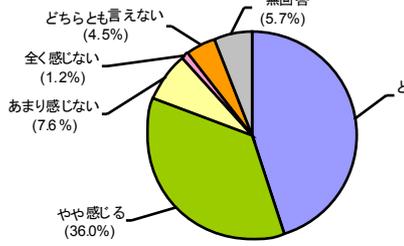
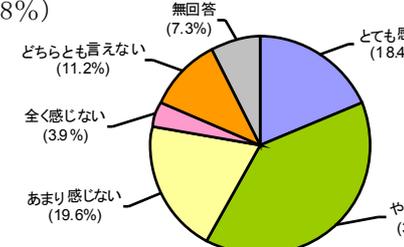
計画・設計の意図	景観に配慮した内容	想定された効果
A. 沿道との一体的な整備		
1 歩道と一体となった「ゆとり空間」の創出	○三角地の残地を道路用地に取り込んでゆとり空間として活用し、ポケットパーク等に利用	●利用形態・頻度等の変化、近隣住民同士の会話の場 ●商業活動の変化、沿道建物のファサード変化、軒先空間の変化、周辺景観の改善
2 良好な街並みの誘導	○土地区画整理事業と連携しながら、沿道を中心に地区計画を策定	
B. 広場空間を設けた地下歩道の整備		
1 利用者の安全性に配慮した明るい地下歩道整備	○外部からの採光に努めた構造、間接照明の採用、明るい色の壁材の採用	●地域活動（イベント・行事）活性化、近隣住民同士の会話の場、清掃等の維持管理活動
2 コミュニティ活動の拠点となる空間の整備	○地域の情報板やミニギャラリー等の整備	
C. 沿道の自然・歴史の再生・活用		
1 沿道の神社林の保持	○沿道の神社林の保持し、歩道と一体的な空間として整備	●利用形態・頻度等の変化、地域活動（イベント・行事）活性化、環境保全・学習活動
2 ホタルの生息環境の復元	○伏流水を誘引し、「ゆとり空間」に「せせらぎ」を整備	●視点場の形成
3 吾妻連峰の山並みを取り入れた道路整備	○高木植栽の樹間調整、高架橋上からの眺望確保	
D. 維持管理システムの構築		
1 施設整備に関する維持管理手法の構築	○沿道に湧き出る伏流水を活用した散水施設の設置、保水効果・雑草萌芽抑制のための松の樹チップの活用	●樹木の手入れ・花壇等の設置、清掃等の維持管理活動
2 景観に配慮した素材の確保維持	○インターロッキングや縁石などの一定備蓄、区間毎の管理マニュアルの作成	

VII-3 調査手法と対象、及び調査範囲

調査手法		対象	調査範囲等
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	整備対象から徒歩圏内（道路軸方向に500m幅の範囲内）の世帯 ※回収結果： 332/800通 （回収率42%）	 <p> アンケート配布範囲 ■ アンケート回収済世帯 地区計画区域 </p>
	事業主体（行政）関係者	①福島河川国道事務所	
ヒアリング調査	利用団体	①北森合自治会会長 志田氏 ②福島市立清水中学校教頭 遠藤氏 ③泉扇田親和会衛生部長 高橋氏 ④清水ほたるの会副会長 二階堂氏	
現地観測調査		平日、休日	

VII-4 事後評価結果

①確認された景観向上効果

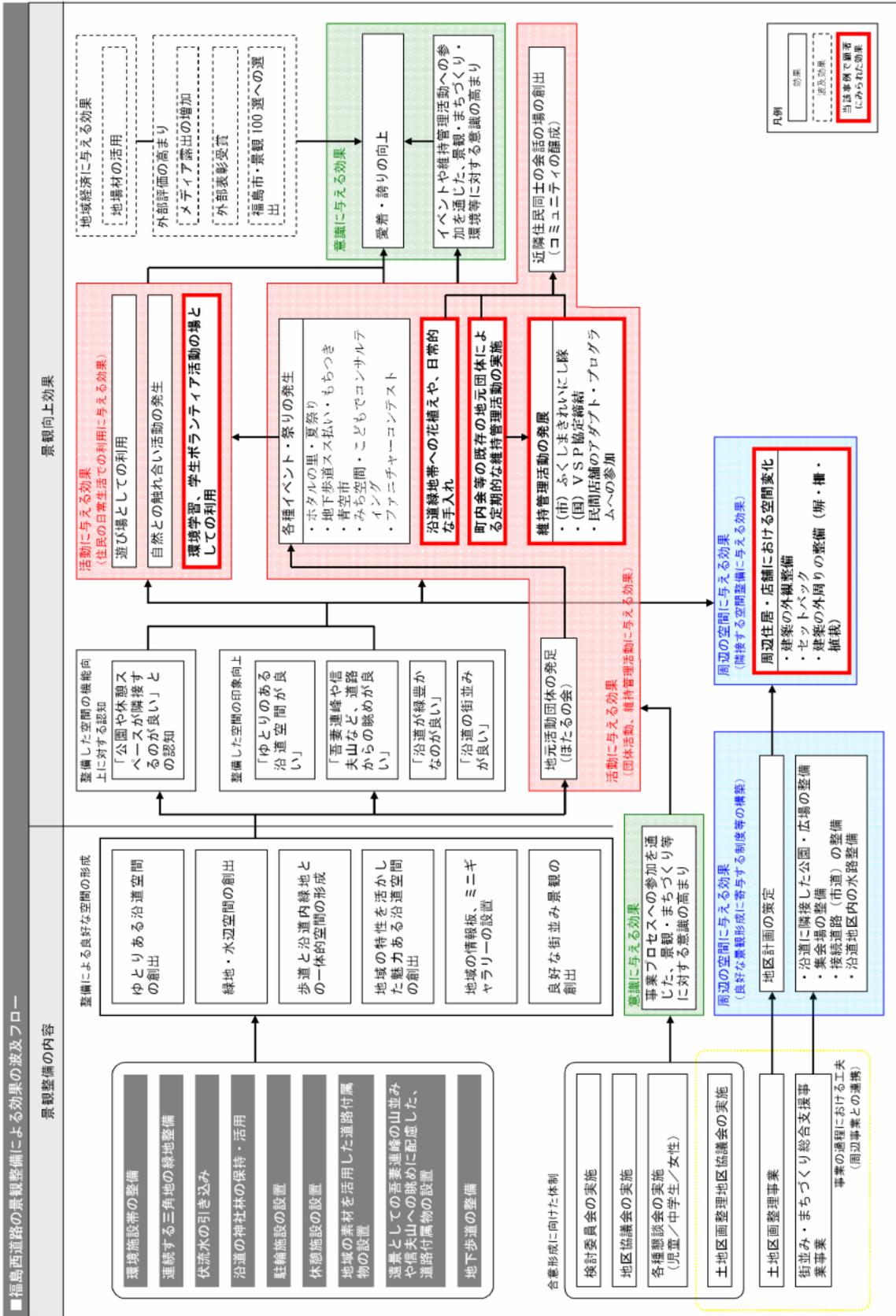
景観整備による効果	調査結果	調査手法
<p style="text-align: center;">整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>①整備した空間の機能向上に対する認知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幅の広い歩道、ゆとりのある沿道空間」 (86%) ・「道路に隣接する公園や、歩道の脇に設置された休憩スペースが良い」 (75%) 	<p>アンケート (N=331)</p>
	<p>②整備した空間の印象の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に印象の良い景観の道路である (83%)  <p>アンケート (N=331)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幅の広い歩道、ゆとりのある沿道空間が良い」 (86%) ・「吾妻連峰の山並みや信夫山の、道路からのながめが良い」 (80%) ・「緑豊かな沿道の植栽や草花が良い」 (80%) ・「道路に隣接する公園や、歩道の脇に設置された休憩スペースが良い」 (75%) ・「地域の個性や歴史を感じる、ほたるの里公園やほたるのせせらぎ公園が良い」 (71%) ・「沿道のまちなみが良い」 (69%) ・「定期的に清掃される沿道や地下歩道が良い」 (64%) ・「沿道の植栽や草花が手入れされたようすが良い」 (64%) ・「夜間の歩道は、足元が照らされていて良い」 (56%) ・「地域の情報がわかる、地下道の情報板・ギャラリーが良い」 (44%) 	
<p style="text-align: center;">意識に与える効果</p>	<p>①親しみ・愛着、誇りの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親しみ・愛着を感じる」 (81%)  <p>アンケート (N=331)</p>	<p>アンケート (N=331)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・福島西道路の風景や、福島西道路からながめられる周辺の風景が好きだから (201/268名) ・「誇りに思う」 (58%)  <p>アンケート (N=331)</p>	<p>(複数回答)</p> <p>アンケート (N=331)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・他の場所ではみられない風景をながめることができるから (119/192名) ・先進的な事例として表彰されたことを、新聞や広報などで知ったため (42/192名) <p>(複数回答)</p>	<p>(複数回答)</p>

	<p>③景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整備後、悪化していく水環境に危機感をおぼえた地元団体が、その回復のための整備を行政に対して要請（その後、対応される）。 ・沿道風景づくり委員会のメンバーである地元住民。「私たちの道路だ!!」「通るたびに、私たちも道路づくりに参加したんだ、って思い出す」「道路に、みんなの意見や気持ちが移されたことを子供たちにもずっと語り伝えたい」 【毎日新聞：家庭版 ふくしまびっくあっぷ、H7.10.15より】 ・地元中学生や町内会による地下歩道の“すす払い”で「通学路なので大切に使いたい」【福島民友刊、H7.12.27より】 ・地元中学校の地下歩道清掃行事に参加した中学生。「いつも通るたびにたばこの吸いガラを見かけていた。腕が張って疲れたが、きれいになった歩道を見ると気持ちがいい」 【朝日新聞、H19.5.30より】 ・地元中学校の地下歩道清掃行事に参加した中学生。「こんなに汚いと思わなかった。たばこのポイ捨てなどやめてほしい」【福島民友、H19.6.1より】 	<p>ヒアリング（地元団体）</p> <p>文献</p>
<p>住民の日常生活での利用に与える効果 活動に与える効果</p>	<p>②利用の多様化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングなど目的地までの通り道（69%） ・散歩・ジョギング・ウォーキング（50%） ・通勤・通学路（31%） ・休憩スペースや隣接公園での休憩（25%） ・写真撮影・スケッチ・周りの景色を眺める（16%）  	<p>アンケート（N=331）、現地観測</p>
	<p>残地部にできた犬の散歩道</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水生動物との触れ合い ・池に浮かぶゴミ拾い 	<p>日陰のベンチで一息</p> <p>ヒアリング（地元団体）、現地観測</p>
	<p>ザリガニ捕りの後、ゴミ拾いに興じる子どもたち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・供用開始年における「ほたるの里夏まつり」への来訪者は前年比2倍（約3000人）【福島民報・朝刊、H7.7.27より】 ・地元団体による、ホタルの生息環境保全の場としての利用 ・地元学生の環境学習・ボランティア活動の場としての利用（勤労、奉仕の精神、郷土愛を養い、地域の一員としての自覚を高めるのが目的。毎年数百名の中学生が参加。教員・町内会員も参加） ・「みんなのかわ・みんなのみちプロジェクト」の実施（国土交通省主催） ・地下歩道空間の使用・利用・清掃に関するルールの設定（音楽演奏の禁止、清掃用具の管理、犬のフンの持ち帰り） 	<p>文献</p> <p>ヒアリング（地元団体）、文献</p>

	<p>③コミュニティの形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道に植えた花木の育てかたなどについて、近隣住民同士、手入れをしながら語らう場となっている ・沿道の掃除仲間が新たにできた <p>水やりをしながらの会話が日課</p>		<p>現地観測 ヒアリング (地元住民)</p>
	<p>①イベントの開催</p>	<p>(供用開始年のみ、青空市の開催、JA)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの実施、参加、鑑賞 (9%) ・年中行事「ホテルの里夏祭り」の盛隆 (歩行者天国にして) ・ホテルの里夏祭り実行委員会発足 ・子どもたちによる、ゆとり空間のデザイン (計画～設置) 「みち空間・こどもでコンサルティング」の実施 	  <p>ホテルの里夏祭り (建設省(当時)パンフより)</p> <p>こどもでコンサルティング</p>	<p>文献、アンケート(N=331)、ヒアリング(地元団体)、文献</p>
<p>団体活動・維持管理活動に与える効果</p>	<p>②維持管理活動の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道緑地帯への花植え・草刈り等の手入れ (個人・団体) 	 	<p>現地観測 ヒアリング (地元住民)</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃などの維持管理活動@整備後 (24%) ・清掃などの維持管理活動@現在 (月2回～ほぼ毎日:8%、年数回程度:19%) ・地域団体の活動 (6%)、個人的な活動 (14%) ・複数の町会各々による定期的な清掃活動 ・地元中学生によるボランティア活動 (年中行事として) ・沿道の水神様への供物の交換 	  <p>地元自治会による日曜清掃</p> <p>水神様への供物の交換</p>   <p>■沿道店舗店員による清掃 ■(同左)</p>	<p>アンケート(N=331)</p> <p>現地観測 ヒアリング (地元住民)</p>

		③地域団体の活動の発展	<ul style="list-style-type: none"> 地下歩道のギャラリーへの、地元住民の絵画・書・生け花等の展示 沿道掲示板への、沿道空間整備に関する地元小学生のアイデア掲示（→イベント「こどもでコンサルティング」） 「清水ホテルの会」発足@施工期直前（沿道住民と施工会社の若手社員による） 既存の町内会等によるボランティア・サポート・プログラム協定の締結（泉地下歩道ボランティア：乙天堂地区親和会+松南団地親和会） 市によるアダプトプログラム「ふくしまきれいにし隊」への参加（①生活協同組合コープふくしま【清掃、46名】、②泉扇田親和会【清掃・除草等、23名】、③西道路いやしの空間きれいにしましょ。【清掃、除草等、2名】） 	文献、ヒアリング（地元住民）
景観整備による波及効果			調査結果	調査手法
周辺の空間に与える効果	隣接する空間整備に与える効果	①建物の形態、ファサード、意匠等の変化	整備をきっかけにして、自宅（店舗）の建物の外観を周囲の景観に配慮して整備した（7/21名）	アンケート
		②建築外構の変化	<ul style="list-style-type: none"> 整備をきっかけにして、自宅（店舗）の外周りへの植栽配置・手入れをしている（10/85名） 整備をきっかけにして、自宅（店舗）敷地外の歩道空間を清掃している（39/126名） 	アンケート
		③公共空間整備の拡張	<ul style="list-style-type: none"> 枝線路地の修景 沿道地区内の水路整備 	ヒアリング
	成に寄与する制度等の構築	①景観条例、景観計画等の策定	整備時期と併せた、地区計画（福島西地区計画）の策定→転じて、地区計画策定をきっかけとした、自宅（店舗）の建物の外観整備（2/21名） 自宅（店舗）の外周りへの植栽配置・手入れ（9/85名） 自宅（店舗）敷地外の歩道空間の清掃（19/126名）	文献、アンケート
地域経済に与える効果	①地場産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 地場材（間伐材）でつくったファニチャーや、接道民家と歩道部との境界としての柵などの設置  <p>沿道家屋への柵としての活用 残地部へのファニチャー</p>	文献	
外部評価の高まり	①外部機関からの表彰等	外部表彰受賞（土木学会技術賞、平成8年）	文献	
	②マスコミ・メディア掲載の増加	<ul style="list-style-type: none"> 新聞や雑誌での記事掲載（道路供用時や供用後における各種イベント、地元学生によるボランティア活動の様子、委員会等に参加した沿道住民等のコメント） 福島市・景観100選への選出（福島市都市政策部都市計画課、平成19年）  <p>福島民報、H8.5.20 朝日新聞、H19.5.30 福島市、H19.4.1</p>	文献	

②効果の波及フロー図



③プロット図

残地を利用した地元イベント「みち空間・こどもでコンサルティング」

沿道住民による、残地の花の手入れ

残地部へのファニチャー

沿道緑地帯への花植え・草刈り等の手入れ

ザリガニ捕りの傍ら、池に浮かぶゴミを拾い集める地元の子供たち

沿道店舗の店員による路上清掃

地元中学生による清掃活動（国交省HPより）

ホタルの里夏祭り

朝日新聞、H19.5.30

自治会単位での清掃活動

日陰のベンチで休憩

犬の散歩ルートとなっている残地部

VIII 壺屋やちむん通り（沖縄県那覇市壺屋地区、街路・遊歩道）

VIII-1 事業条件の整理

【事業名】	壺屋やちむん通り	【事業分野】	街路・遊歩道
【事業対象・規模】	対象：沖縄県那覇市壺屋地区 規模：L=380m		
【事業主体】	那覇市	【周辺関連事業】	壺屋地区都市 景観形成地域
【景観検討の段階】	構想・計画・設計・施工・維持管理		
【事業期間・施工】	平成8年～平成11年		
【事業概要】	<p>壺屋は、琉球王府時代に窯業振興のために形成され、今日に至るまで焼物の一大生産地として、歴史と伝統を受け継いでいる地域である。今日、国指定重要文化財の新垣家をはじめ、登窯（のぼりがま）が三基、他に赤瓦の屋根、石垣、拝所等、昔の佇まいが今に残っており、発展が望まれている。壺屋地区のメインストリートやちむん通りは、全長400メートルで両側に壺屋焼を売る店が並び、住民や観光客が買物や散策を楽しむところとなっている。平成8年、那覇市によってコミュニティ道路整備事業が予算化されるのに伴い、具体的な整備のあり方を住民主体で真剣に検討し取り組んできた。そして、住民の提案による石畳道は平成11年には、無事完成をみた。住民と行政が協力し合い、みんなでつくった道だという意識が高く、道づくりから街づくりへと広がっていった。美しい石畳道は住民の誇りであり、清掃、緑や花を増やす活動が活発になった。壺屋地区は「景観形成地区指定」を受け、やちむん通りは那覇市の都市景観賞に輝いた。</p> <p>また、中心商店街と一緒に、「ピース・ラブ・マチグァー（まちを愛すること）&壺屋まつり」を毎年行っている。これらの活動が評価されて、平成11年には地域づくり表彰国土庁長官賞を、平成13年には、ふるさとづくり振興奨励賞を受けた。</p>		



図 対象地周辺図

Ⅷ－２ 調査対象とする景観向上効果の選定

計画・設計の意図	景観に配慮した内容	想定された効果
A. 地域の素材を用いた「沖縄らしい美しさ」を出したコミュニティ道路整備		
1 琉球石灰岩を用いた石畳道	○本島南部で採石される琉球石灰岩の採用 ○素朴な風情が職人のまちである壺屋を表現するため、雑相方張り・荒い目のピシヤン仕上げとした ○年月を経るごとに地域になじんでいく素材の採用	●施設・空間の印象評価 ●意識変化（親しみ・愛着、誇り） ●利用形態・頻度等の変化 ●清掃等の維持管理活動
2 元々のゆるやかなS字型カーブを生かしたシンプルな意匠	○クランク等的人為的なカーブを新たに設けない、自然の線形を活かした意匠	
3 歩行者や自転車利用者の安全を優先した道路整備	○歩車道境界に必要な最小限の段差を設けた歩車分離型共存道路	
4 石畳やガジュマルと調和したストリートファニチャー	○琉球石灰岩のベージュやガジュマルの緑と調和するデザイン ○既存の緑を活用した整備	
B. 伝統産業を活かしたまちづくりと一体となった整備		
1 街並みと調和した看板づくり、店舗修景	○ひとつの地区としての統一的な景観の形成 ○職人のマチ・壺屋を表現するデザイン	●建物ファサード変化 ●軒先空間の変化 ●周辺施設の連帯性の向上
2 都市景観形成地域指定	○建築物の屋根は琉球赤瓦葺きを原則とし、雨端空間や緑化空間を確保	
C. 既存の歴史的資源の保全整備		
1 ガジュマルの保全	○沿道の樹木群とともに保全育成を行う。	●樹木の手入れ、歌壇等の設置
2 共同井戸の整備	○共同井戸を保全するとともに修景し、緑陰のある空間として活用を図る。	

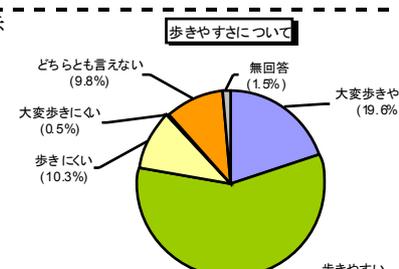
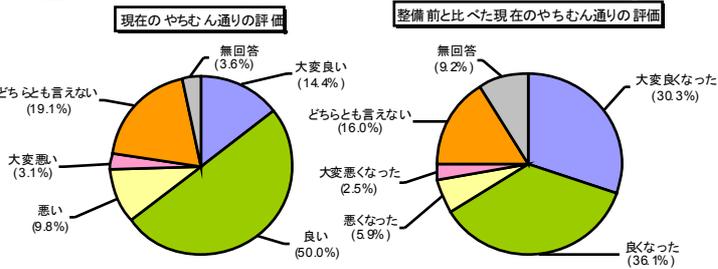
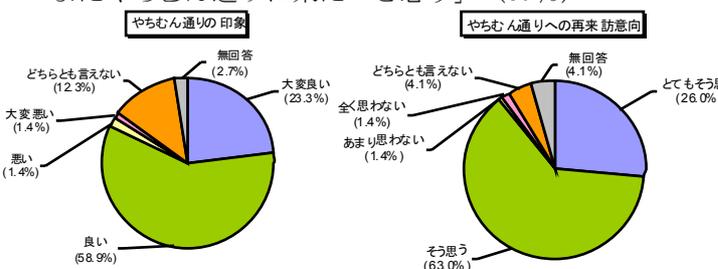
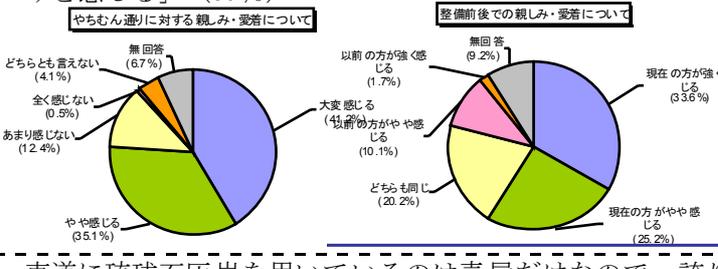
Ⅷ-3 調査手法と対象、及び調査範囲

調査手法		対象	調査範囲等
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	壺屋地区景観形成地区内の全 550 世帯 ※回収結果：191/550 通 (回収率 35%)	
	現地来訪者 (観光客を含む)	現地来訪者 回収状況：73 票	
ヒアリング調査	事業主体 (行政) 関係者	①那覇市都市計画部 ②那覇市建設部	
	設計者	①安藤先生 ②小野先生	
	利用団体	①壺屋自治会長 ②やちむん通り会長 ③壺屋焼物組合長 (整備時やちむん通り会長) ④NPO 法人街角ガイドヒアリング (副会長、ガイド、那覇市観光協会事務局長)	
	対象建築物等所有者	①街路整備と同時に助成を得て軒先を改修した家主 (1/4 軒)	
現地観測調査		平日、休日	

図 事例対象位置図

VIII-4 事後評価結果

①確認された景観向上効果

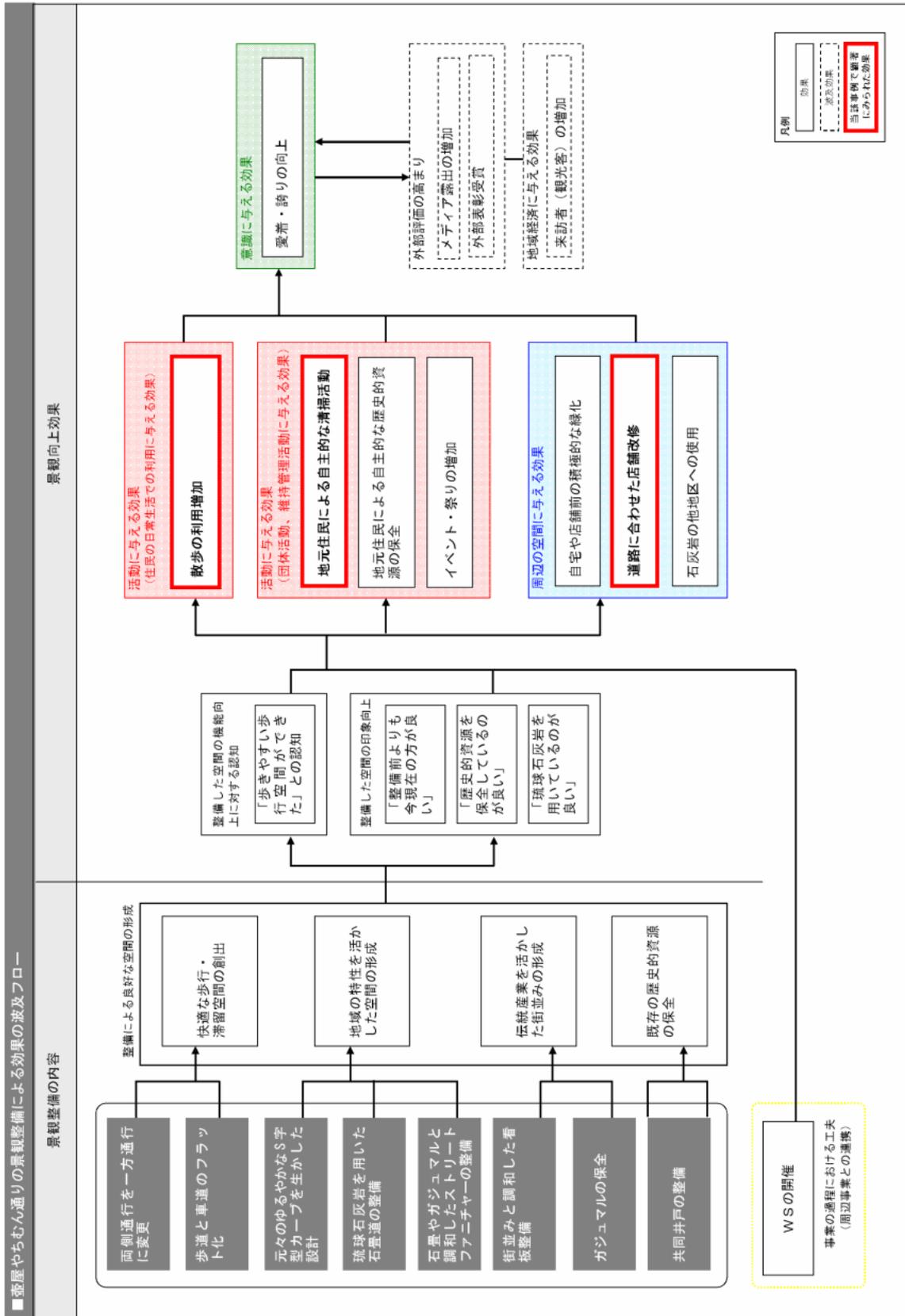
景観整備による効果	調査結果	調査手法
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>①整備した空間の機能向上に対する認知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客による評価「石の上を歩くのが気持ち良い」 ・「大変歩きやすい」「歩きやすい」(78%) 	<p>ヒアリング (ボランティアガイド)</p> <p>アンケート (地元住民 N=194)</p>
	<p>②整備した空間の印象の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスファルトから石畳に変わり、都会で琉球の歴史文化を伝える重要な場所としてガイドしている ・今現在のやちむん通りに対する評価「大変良い」「良い」(64%) ・「整備前と比べて今現在のやちむん通りの方が良い」(66%)  <ul style="list-style-type: none"> ・やちむん通りに対する評価「大変良い」「良い」(82%) ・「またやちむん通りに来たいと思う」(89%) 	<p>ヒアリング (ボランティアガイド)</p> <p>アンケート (地元住民 N=194)</p> <p>アンケート (来訪者 N=73)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意識に与える効果</p>	<p>①親しみ・愛着、誇りの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(今現在の) やちむん通りに愛着や親しみを感じる」(76%) ・「整備前と比べて今現在のやちむん通りの方が愛着や親しみを感じる」(59%)  <ul style="list-style-type: none"> ・車道に琉球石灰岩を用いているのは壺屋だけなので、誇りに思う 	<p>アンケート (地元住民 N=194)</p> <p>ヒアリング (地元団体)</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・「(今現在の) やちむん通りを誇りに思う」 (71%) ・「整備前と比べて今現在のやちむん通りの方を誇りに感じる」 (58%) <p>やちむん通りに対する誇りについて</p> <p>整備前後での誇りについて</p>	<p>アンケート (地元住民 N=194)</p>
	<p>②地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「(今現在の) やちむん通りに、沖縄らしさを感じる」 (72%) <p>現在のやちむん通りの沖縄らしさについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「共同井戸など、歴史的資源を保全しているのが良い」 (92%) ・「ガジュマルなど、多くの緑を保全しているのが良い」 (86%) ・「車道と歩道に琉球石灰石を使用しているのが良い」 (83%) ・「木陰の下にベンチが設置されているのが良い」 (78%) ・「壺屋らしい個性的な店舗看板を設置しているのが良い」 (75%) 	<p>アンケート (地元住民 N=194)</p>
<p>活動に与える効果</p> <p>住民の日常生活での利用に与える効果</p>	<p>①利用の増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「来訪者への案内」をするようになった、その回数が増えた (49名) ・「通勤・通学・買い物等目的地までの通り道」として利用するようになった、利用頻度が増えた (21名) ・「散歩・ジョギング・ウォーキング」として利用するようになった、利用頻度が増えた (25名) ・「ベンチで休憩」をするようになった、利用頻度が増えた (9名) ・「イベントへの参加・鑑賞」として利用するようになった、利用頻度が増えた (30名) ・観光バスが停まるようになった ・堀川運河の観光ツアーの申込み数が増加した 	<p>アンケート (地元住民 N=194)</p>
	<p>②利用の多様化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影の対象 	<p>ヒアリング (事業者 [日向市]、 地元代表者)</p> <p>現地観測</p>

団体活動・維持管理活動に与える効果	①イベントの開催	・以前から行われていた「通り会まつり」に加えて、「シーサーの日（毎年4月3日）」にもイベントが開かれるようになった	ヒアリング (地元代表者)	
	②維持管理活動の実施	・駐車場や店舗前における積極的な緑化	 現地観測	
		・「やちむん通りで行なわれる清掃活動への参加」を新しく始めた、参加回数が増えた(13名) ・住民による自主的な清掃	 アンケート (地元住民 N=194) 現地観測	
	③地域団体の活動の発展	・やちむん通りの整備にあたり、個別に活動していた「自治会、組合、通り会、愛護会」が集まり、「壺屋やちむん通りを考える会」が結成された。多いときには、約90人が自治会館に集まって、やちむん通りのあり方について議論	ヒアリング (地元代表者)	
景観整備による波及効果		調査結果	調査手法	
周辺の空間に与える効果	隣接する空間整備に与える効果	①建物の形態、ファサード、意匠等の変化	・整備時に設計者の示唆により、ハウジングアンドコミュニティ財団の助成に応募。店の入口まで石灰岩で舗装、建物ファサードの塗り替え、パーゴラの設置、ホウホウボクやブーゲンビリアを植栽	 ヒアリング (店舗経営者)
		②建築外構の変化	・木の下にベンチ設置、店内を板張りに改修	
	周辺の空間整備に与える効果	①周辺施設整備との連携	・那覇市の他地区の街路事業に琉球石灰岩を使用(首里城周辺の歩道)	 ヒアリング (事業者[那覇市])
		・壺屋自治会館前の舗装に琉球石灰岩を使用	  ヒアリング (地元代表者)	

地域経済に与える効果	①地場産業の活性化	・琉球石灰岩の舗装への採用	ヒアリング
外部評価の高まり	①外部機関（専門家）からの表彰等	・国土庁長官賞（平成 11 年）、土木学会デザイン賞（平成 15 年）を受賞	ヒアリング（地元代表者）
	②マスコミ・メディア掲載の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドへの掲載 ・新聞でも多く取り上げられている（観光客の投稿、自治会の動き等）  <p>観光パンフへの掲載</p>	ヒアリング（地元代表者）

②効果の波及フロー図



③プロット図

以前から行われていた「通り会まつり」に加えて、「シーサーの日(毎年4月3日)」にもイベントが開かれるようになった



駐車場や店舗前における積極的な緑化(花壇設置等)



壺屋自治会館前の舗装に琉球石灰岩を使用



写真撮影の対象



住民による自主的な清掃



整備時に設計者の示唆により、ハウジングアンドコミュニティ財団の助成に応募。店の入口まで石灰岩で舗装、建物ファサードの塗り替え、パーゴラの設置、ハウホウボクやブーゲンビリアを植栽。また、木の下にベンチ設置、屋内を板張りに改修



那覇市の他地区の街路事業に琉球石灰岩を使用(首里城周辺の歩道)



IX 勝山橋（福井県勝山市、橋梁・高架橋）

IX-1 事業条件の整理

【事業名】	勝山橋	【事業分野】	橋梁・高架橋
【事業対象・規模】	対象：勝山橋（福井県勝山市）、2 径間単純下路式鋼ローゼ桁（橋長 91m+91m 部分） 規模：橋長 335m(30+91+91+123m)、幅員：22.8m（歩道 4.0m×2、車線 3.0m×2）		
【事業主体】	福井県	【周辺関連事業】	なし
【景観検討の段階】	構想・計画・設計・施工・維持管理		
【事業期間・施工】	設計期間：1995.3～1997.3、施工期間：1996.4～2000.3		
【事業概要】			
<p>古くは白山信仰の拠点として栄えた勝山は、平泉寺などの古刹があり、市内には九頭竜川が貫流し、福井県嶺北地方の山並みに囲まれた豪雪地帯としての有名な場所である。</p> <p>勝山橋は、えちぜん鉄道（旧京福電鉄）の勝山駅と市街地を結ぶ軸線上に架かり、勝山市へのゲートとなる橋である。また、橋直近の九頭竜川の河川敷では「佐儀長（ドンド焼）」などのイベントが行われ、その観覧席となることも期待されていた。橋上から眺められる日本三急流の一つ、九頭竜川の流れ、その上流に望見される奥越の山々の姿が印象的であり、これらの力強い空間骨格を持つ山と川に負けず、且つ調和する橋梁デザインが求められていた。</p> <p>現時架橋されている橋は三代目であり、初代は大正四（1915）年竣工の吊り橋、二代目は左岸流水路部のみが下路トラス、高水敷部はゲルバー桁の橋で、昭和十二（1937）年（昭和三十八（1963）年に一部架け替え）に竣工した。この橋には、市街地から橋を渡って駅へ、駅から外地へと赴いた戦時の出征の記憶が残っており、橋に対する地元の思い入れは強く、県下で初めての形式の橋を架けようとするエンジニアの願望と、斜張橋や吊り橋などを望む地元の強い要望があり、且つ、駅と市街地を結ぶ軸線上に架かる勝山橋には、勝山町へのゲートとしての役割も求められていた。</p> <p>こうした要望に対しての回答は、単純下路式鋼ローゼ桁（橋長 91m+91m 部分）というアーチ橋であり、ライズを低く抑え、山並みに対して突出せず、柔らかく流れるようなアーチ形状であり、比較的大きな断面幅を持つアーチリブと、ドライバーの橋への安全な進入を促す照明を兼ねた親柱が、市街へのゲート性を演出する形となっている。</p> <p>勝山は発見された化石をもとに恐竜の町として売り出そうとしており、出来上がった橋は、地元では「恐竜の背骨」などと呼ばれ、愛着を持たれている。</p>			
		 <p>図 事例対象位置図</p>	
【整備前後の写真】			
整備前 		整備後 	

IX-2 調査対象とする景観向上効果の選定

計画・設計の意図	景観に配慮した内容	想定された効果
A. 背景となる山並みとの調和		
1 山並みに合った柔らかい形状、突出しない伏せた形	○アーチのライズ比を1/8に抑え、独特のうねりを持つアーチ形状により、山並みとの調和を図った。	●施設・空間の印象評価
2 山々に溶け込み、積雪・降雪に映える色	○四季移り変わる周囲の自然の色彩の中で目立ちすぎず、かつ埋没せずに映える色として、BG系アーモンドグリーン色を採用した。	●意識変化(親しみ・愛着、誇り) ●利用形態・頻度等の変化
B. 町の玄関としてのゲート性		
1 左右に対峙するアーチリブによるゲート性の演出	○橋門構や上横構がなく、リブ幅が大きく力強い動的な形状を持つアーチリブにより、開放的且つ力強さをあわせ持ったゲートの役割を演出した。 ○2連のアーチ部では照明柱を立てずにアーチリブ下面に取り付け、照明柱の林立によりアーチリブのうねりが乱されるのを避けた。	●施設・空間の印象評価 ●意識変化(親しみ・愛着、誇り) ●利用形態・頻度等の変化
2 親柱・照明柱によるゲート性の演出	○橋梁入り口部には左右に照明柱と一体化させた親柱を配して、ゲート性を演出	
C. イベントの観覧席になることも想定した人にやさしい歩行空間(橋上空間)		
1 歩行・滞留空間のゆとり	○下路式アーチの落雪事故を回避するため、アーチリブをつなぐ上横構をなくして、印象的な曲線形状を持つアーチリブ形状を強調するとともに、歩行者への圧迫感のない開放的な橋上空間とした。	●施設・空間の印象評価 ●意識変化(親しみ・愛着、誇り)
2 人の手に触れることに配慮した地場産の木材(杉材)の活用	○高欄の手摺り部分は、歩行時又はイベント等の観覧時などに利用者の手に触れられることに配慮し、やさしく温か味のある木材を使用(地場材を使つての地域振興の側面も持つ。)	●利用形態・頻度等の変化 ●視点場の形成

IX-3 調査手法と対象、及び調査範囲

調査手法		対象	調査範囲等
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	整備対象周辺の世帯を対象としたアンケート ※回収状況：188/355 通 (回収率 53%)	
	現地来訪者(観光客を含む)	現地来訪者を対象としたアンケート ・回収状況：141 通(うち 41 通は電車内、また 32 通は市役所内)	
ヒアリング調査	事業主体(行政)関係者	①福井県勝山土木事務所 三田村氏(当時担当者) 安井氏(現在管理担当者)	
	利用団体	①勝山市建設部 建設課 松井博文氏 市街地活性化推進室 池田芳成氏	
現地観測調査		平日	

IX-4 事後評価結果

①確認された景観向上効果

景観整備による効果	調査結果	調査手法
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>①整備した空間の機能向上に対する認知</p> <ul style="list-style-type: none"> 「歩道が広くなったため、ゆっくり安全に歩行することができるようになった」 「自動車の通行時も安心して利用することができるようになった」 	アンケート
	<p>②整備した空間の印象の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の勝山橋に対する評価「大変良い」「良い」(86%) <ul style="list-style-type: none"> 「歩道空間を良いと思う」(90%) 「橋の形状を良いと思う良い」(85%) 「橋の色を良いと思う」(75%) 「橋上のベンチを良いと思う」(73%) 「親柱を良いと思う」(67%) 現在の勝山橋を整備前と比べて、「大変良くなった」「良くなった」(89%) 	アンケート (N=329)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意識に与える効果</p>	<p>①親しみ・愛着、誇りの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 「(今現在の)勝山橋に親しみ・愛着を感じる」(69%) 「整備前と比べて、今現在の勝山橋の方が愛着や親しみを感じる」(63%) 	アンケート (N=329)
	<ul style="list-style-type: none"> 「(今現在の)勝山橋を誇りに思う」(48%) 「整備前と比べて、今現在の勝山橋の方が誇りに感じる」(67%) 	アンケート (N=329)

活動に与える効果	住民の日常生活での利用に与える効果	①利用の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチでの休憩する利用者の発生 ・写真撮影者の発生 ・橋上からの眺めを楽しむ利用者の発生 ・少数ながら、通勤・通学や買い物、散歩による利用や、橋上のベンチ利用、写真撮影の機会が増えている   <p>■ベンチでの休憩 ■橋上からの写真撮影</p>	アンケート ヒアリング (地元住民) 現地観測
		②利用の多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のウォーキングイベント「歩こう会」の散策ルートに含まれている ・小学校の学習の話題としての活用 	ヒアリング (地元住民) アンケート
	団体活動・維持管理活動に与える効果	①イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のウォーキングイベント「歩こう会」の散策ルートに含まれている 	ヒアリング (地元住民)
景観整備による波及効果		調査結果		調査手法
周辺の空間に与える効果	周辺の空間整備に与える効果	①周辺施設整備との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・本整備を契機として関わりのできた専門家を交えた周辺整備の実施（橋梁周辺の堤防の照明整備、市街地における大清水、街路整備等） 	ヒアリング (勝山市)
外部評価の高まり		①外部機関（専門家）からの表彰等	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会デザイン賞受賞（平成18年） ・知人等からの高い評価が得られている 	アンケート

③プロット図

